

ふくしおおさか 特別号 ～出かける つなぐ 創る～

○1ページ

スペシャルインタビュー 違うことは「強み」隻腕スイマーの挑戦

数々のオリンピックメダリストを輩出してきた名門・近畿大学水上競技部の早朝練習。スピード感ある泳ぎ、コンマ数秒を競う緊張感、迫力ある声だし、どれをとっても圧巻だ。

中でも、ひととき存在感を放つ選手がいた。世界を舞台に活躍するパラスイマー、一ノ瀬メイ (いちのせ めい)。2020年の東京パラリンピックを見据え、チームメイトと切磋琢磨する日々だ。

互いを知り合い、理解しあう

毎朝5時に起きて、6時半から早朝練習に挑む。水泳は個人競技だが、チームの仲間と一緒にだからこそ頑張れることも多い。近大・水上競技部に所属して4年目。パラスイマーは私1人だけだ。入部当初、みんなの目指すタイムを聞いても、それが日本でどのレベルなのか全然わからなかった。みんなも、パラ水泳は未知の世界だったと思う。一緒に練習する中で、みんながパラのことを深く理解してくれるように。お互いを知り合い、支え合うことができたのは、大学生活で得た大きな財産だ。

障害は、ただの違い

小学校時代、イギリスで1年間暮らしていたことがある。多様な人種の人や、髪の色や肌の色、信仰などもさまざまだった。現地で、子どもが車いすに乗っている人を見て「あの人、なんで車いすに乗っているの？」と親に聞く光景を目にした。親は「そんなこと言わないの」と声をひめるのではなく、直接本人に「すいませんが、理由を教えてくださいませんか」と素直に向き合っていた。ただの違いなので、疑問に思ったら聞けば良いというスタンスなのかなとも思う。

○2ページ

社会がつくる「障害」

子どもの頃、「障害があるから」との理由で水泳教室の入会を断られた経験がある。街を歩いているだけでも、腕をジロジロと見られることがある。腕が短いことが障害なのではなく、腕が短いことでいろんなことが制限されてしまうのが障害。社会が障害をつくり出していると感じる。

一人ひとりを知ってほしい

日本って、「障害者」とか「オタク」とか、何でもまとめて一括りにしてしまいがち。一人ひとり個性があって、全然違うのに。私も普通に生活していたら、ただの手が短い女の人。一人ひとりを「個」として知ろうとすることが大事だと思う。

人と違うのは、ラッキーなこと

中学生や高校生ぐらいまでは、周りとは少し違うことで悩んだり、必死になじもうとがんばっている子がいたりする。でも、年齢が上がれば上がるほど、人との違いは強みになる。「自分は、みんなと何が違うのか」「自分にしかできないことは何だろう」と必死に考えることが、就活などさまざまな場面ででてくるだろう。私の場合は、腕が短いことが明らかに人と違う。でも、それは強みであり、ラッキーなことだと思っている。学校の外にも目を向けて、視野を広くもってほしい。年齢を重ねれば世界が広がって、違いが生きてくる時が必ず来るから。

眼は遠くを、足は地に

これは、元国連事務次長・明石康さんの言葉。ずっと大切にしている。高校に入学して間もない頃、ロンドン・パラリンピックの最終選考があった。タイムが伸びず、世界ランクは20位。全然ダメだと思っていたときに、この言葉に出会った。自分は足元ばかりを見ていて、遠くの目標が見えていなかった。日々の練習をこなすことに必死で、何のための練習なのかを見失っていたのかもしれない。高望みするだけではダメだし、でもがむしゃらにがんばるだけでも意味がない。遠くを見ることが、地に足をつけるということのバランスが一番大切だと感じている。

パラリンピック水泳競技の見どころ

パラスポーツは、障害を補うために補装具を使うことも多い。水泳は、身体ひとつで勝負する。「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」。パラリンピックの父といわれるグットマン博士のメッセージだ。障害別に、身体障害だと10のクラスに分かれていて、同じ障害の程度の人と競う。他に視覚障害が3クラス、知的障害が1クラスある。身体障害の場合、同じクラスでも足欠損や腕欠損、麻痺などいろいろな障害があり、それぞれ泳ぎ方も違う。“個性”を強みに変えてどう泳ぐかを、ぜひ観てほしい。

東京では、メダルをめざす

2年前、初めてリオデジャネイロのパラリンピックに出場した。あの舞台は、これまでに経験した世界大会とは別格だった。結果が出ず悔しい思いをしたが、パラリンピックがどういう場所なのかを知ることができた。リオが終わってから、確実に力をつけてきた。来年の世界選手権ではしっかりトップの選手と戦っていかなければいけない。結果に集中し、一年一年を大事にしていきたい。2020年の東京パラリンピックでは、表彰台をめざす。

一ノ瀬 メイ プロフィール

1997年3月17日生まれ、京都市出身。先天性の右前腕欠損症。1歳半から競泳を始め、2010年広州アジアパラリンピックの50メートル自由形(S9)で銀メダル。昨夏のリオデ

ジャネイロ・パラリンピックには個人、リレーの計 8 種目に出場した。父はイギリス人、母は日本人で、幼少期より家庭内では英語で過ごす。167 センチ、58 キロ。近大経営学部 4 年。

いろいろなことにチャレンジを

大阪府教育委員会 教育長 酒井 隆行（さかい たかゆき）

高校生のみなさん、この「ふくしおおさか」に掲載されている福祉施設での体験レポート、インタビュー等を通して、福祉の現場で働く人、地域や世界で活躍している人のこと等をたくさん知ることができたのではないのでしょうか。私は、この福祉の仕事や取り組みを通じて、感謝と感動、そして生きる希望を皆さんに実感していただけると確信しています。これからも、みなさんが夢や志を持ち、その実現に向かって一步一步着実に、いろいろなことにチャレンジしてほしいと願っています。

○ 3 ページ

介護現場で働く先輩にインタビュー

大阪府立西成高等学校 2 年生のみんなが、福祉現場で働く先輩にインタビューした。答えてくれたのは、同校・卒業生の今岡智晶（いまおか ともあき）さん（社会福祉法人ヒューマンライツ福祉協会）。

今岡さんは訪問サービス「ヒューマンライツホームヘルプセンター」に介護職員として勤務。高齢者や障がい者が地域で普通に暮らし、自分らしい生き方ができるよう、日常生活を支えている。高校 2 年時に介護職員初任者研修を修了。高校卒業後、同法人に入職して 4 年目になる。今は介護福祉士の資格を取得することが目標だ。

Q1.なぜ、福祉・介護の道を選んだの？

きっかけは、中学校の担任の先生の一言。進学を考える時に、「今岡くんは福祉に向いていると思う。在学中に福祉の資格が取れる西成高校を目指してはどうか」と助言してもらった。西成高校では、在学中に介護職員初任者研修を受講することができる。家族からも「福祉の仕事に向いている」と勧められ、もともと「人のためになる仕事をしたい」と思っていたこともあり、今の仕事を選んだ。

Q2. 介護の仕事の魅力は？

さまざまな方とコミュニケーションをとれること。初めは苦手だったが、先輩職員からのアドバイスや指導で「人とどう接したらいいか」「利用者とのコミュニケーションをとるためにどうしたらいいか」を考えるようになった。まだ得意とまでは言えないが（笑）、今はすごく楽しい。

Q3.うれしかったことは？

やっぱり「ありがとう」と感謝されること。仕事をしていると辛いことやしんどいこともある。でも利用者のお宅を訪問し、帰り際に笑顔で「ありがとう」と言われると「よし、がんばろう！」と元気をもらうことがたくさんある。

Q4. 仕事で苦勞したことは？

家事援助で食事を作ることがある。利用者宅で料理を作っても、最初の頃はうまくいかなかった。そこで、先輩職員が練習できる機会を作ってくれて、今では何とか（笑）。得意料理は卵焼き。自分の祖父母にも料理を作り、喜んでもらっている。

Q5. 介護の仕事をしていくうえで、気をつけていることは？

介護は体力的にきつい仕事と思われがちだが、介護技術の習得や介護機器の活用でかなり負担は軽減される。長く働き続けるためにも、正しい知識を学んでおくことが大切だ。また、利用者に寄り添いつつも、すべてのことを支援してしまわないことも大事だ。いきいきと生活してもらうためにも、支援が必要なところだけをサポートするよう心がけている。

Q6. 最後に高校生へメッセージを

介護に限らず、勉強をしても、仕事をしているとわからないことがたくさん出てくると思う。今、改めて「まずは何事も基礎をしっかりと学ぶことが大切だ」と実感している。自身の進路を考える時に役立ったのが、「就業体験」。高校生の時に研修として介護の仕事を体験したことは良い経験になった。介護の仕事に限らず、就職や進学を考える時にぜひそういった体験を勧めたい。

上司からコメント

同センター、サービス提供責任者・主任 赤井 栄（あかい さかえ）さん

今岡さんは利用者からも評判がよく、温かく成長を見守ってもらえている。自分の意見をしっかりと伝えることができ、積極的にコミュニケーションもとれる。利用者や同僚から求められていることを的確に察知し、自分に何ができるのかを考える力もついてきた。介護現場に、なくてはならない存在に成長してくれた。

高校生たちの感想

- ・「人のためになる仕事を」と介護の道を選んだ理由がカッコイイ！
- ・長く働き続けるためにも、正しい知識が必要だと知った。
- ・私も、もっとたくさん学んでいきたい。
- ・私も高齢者を笑顔にしたい！絶対がんばろうと思った。

★保育現場で夢体験★

大阪福祉人材支援センターでは、今年も夏休み期間に、高校生を対象とした保育の職業体験事業「五日間の夢体験」を実施。今年も130を超える施設で約350人の高校生が体験した。高校生からは、「個性や個人差があるので、一人ひとりに合わせて接することが大事だと思った」「子どもたちがたくさんほめてくれて、人をほめることがすごく素敵だと実感した」「一歳違うだけで言葉や行動がすごく発達していて、子どもの成長スピードに驚いた」など、様々な気づきや学びを得た感想が寄せられた。

職業体験でなりたい自分を見つけよう！

福祉・介護の事業所、保育所を含む児童福祉施設などの就業体験ができる「福祉インターンシップ事業」「職場体験事業」「児童分野現場体験事業」なども実施。高校生や大学生、一般の方などを対象に進路決定や業界研究、就職活動の際に活かすことができる。

詳しくは、大阪福祉人材センターで検索

○4ページ

地域のひろば×ボランティア OSAKA No.88

熱意は人を動かし、社会を動かす！

大阪北部地震 災害支援の現場から

6月18日（月）午前7時58分頃、大阪府北部を震源とするマグニチュード6.1の地震が発生。北摂を中心に震度5強から6弱の揺れを観測し、家屋の損壊やガスの供給停止、断水などが起こった地域も。被害の大きかった7市の社会福祉協議会に、災害ボランティアセンターが設置された。災害ボランティアセンターには、大阪府を中心に、日本各地からボランティアが集まり、社会福祉施設、NPO法人、学生ボランティア、専門的技術をもつボランティアなどが活躍した。

災害ボランティアセンターとは？

大規模な災害が発生した時に、ボランティア活動を円滑に進めるための拠点として設置される

社会福祉協議会（社協）とは？

地域のさまざまな福祉課題の発見・予防・解決に向けて、地域住民やボランティア・福祉施設等の関係団体が協力し、それぞれが主体的に参加・活動する組織。全ての都道府県・市区町村に設置されている。

災害ボランティアセンターの役割

- 1.被災者がお願いしたいこととボランティアができることをつなぐ
- 2.ボランティアのチカラで生活再建をめざす。

3. ボランティア活動の安心・安全な環境整備

4. 関係団体との協働のネットワークづくり (ボランティア、個人、グループ、NPO法人、企業、大学・高校、福祉関係施設・団体、専門・職能団体 等)

大阪北部地震の被災地で必要とされた主な支援 (例)

ガレキの撤去、掃除・家具の移動、屋根のブルーシート張り、家財の運び出し

学生ボランティアが大活躍!

今号では、「NPO法人国際ボランティア学生協会 (通称イビューサ IVUSA)」の活動を紹介します。大学生である彼らは、大阪北部地震の発災直後から、ボランティア活動だけでなく、災害ボランティアセンターの運営面においても活躍した。IVUSAは、茨木市や高槻市で、災害ボランティアセンター設置のお知らせのチラシを配付したり、被害の大きかった地域のお宅へ訪問し、困りごとがないかどうか聞き取り調査を行うなど、特に被災者の困っていることに寄り添い、被災者と災害ボランティアセンターをつなぐ役割を担った。

○ 5 ページ

NPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA)とは?

International
Volunteer
University
Student
Association

IVUSAは、全国の大学生約4100人が所属する学生ボランティア団体。災害救援・国際協力・環境保護・地域活性化・子どもの教育支援の5つの分野を軸に活動している。学生は関東・関西に約半数ずつ、全国に存在する32の各クラブに所属し、大学や地域に根ざした活動を行う。活動内容は、たとえば、滋賀県のびわ湖に大量発生している外来種の水草を除去する環境保護活動など。また、東日本大震災や平成30年7月豪雨災害の被災地でも災害救援活動を行っている。

現場で最高のパフォーマンスを

活動の目的は、現場でのニーズに最大限応えることであり、チームワークが必要不可欠。そのために、普段からチームとして動けるように自己理解や他者理解などのための研修に力を入れている。それぞれの活動場所で冷静かつ適切な対応ができるように、事前に研修を行い、想定されるリスクを挙げてその解決策を考えていくとともに、会員同士での情報共有を行う。

全ては被災された方のため

大阪北部地震発災後、IVUSAの大阪茨木クラブと日頃からつながりのあった茨木市社協からボランティアの協力依頼があった。発災翌日から茨木市で活動を開始。地域をまわり、一軒ずつ災害ボランティアセンターのチラシを配ったり、「何か困っていることはないですか」と聞き取りを行い、ニーズがあれば家財整理も手伝った。活動中に心がけていたのは住民に寄り添うこと。困りごとの聞き取りを行っていた際に、倒れた家具を起こしてほしいとの依頼があった。学生が現地に行くと一人暮らしの高齢者が住んでいた。学生は女性の表情や声のトーンが暗いことに気づき話をしていると、一週間前に夫を亡くしたという。そこに地震が起き、女性は心細く片づけもできない状態だった。学生は、淡々と活動をするのではなく、女性の心配ごとや困りごとを自分のことと捉えるように心がけた。

活動を終わると、女性は涙ながらにお礼を述べられた。

学生代表の八巻 誉人（やまき たかと）さんは、「学生ボランティアの強みは、時間をかけて人と向き合えること。人としての温かさを大切に活動したい。自分たちの活動が誰かの心に響いて、次につながってほしい」と話した。

西日本運営本部本部長の坂本 奈月（さかもと なつき）さんは、「自分たちの拠点（事務所）がある地域が被災したのは初めて。まずは、発災直後にLINEを使ってそれぞれクラブで会員の安否確認を行い、同時に翌日から大阪で活動できる人を募った。学生の中には被災して避難所にいる人もいて、余震への不安もあった。しかし、気にかけてくれる人もたくさんいて全国の会員が大阪へ来てくれた」と活動の初動期を振り返った

一人ぼっちにさせない

今回の活動について八巻さんは「チラシ配りのように直接住民とふれあわない活動もあったが、被災地のためになるなら“との思いで住民たちの困りごとを掘り起こすため、積極的に行った。さらに、都市部での災害のため被害状況が外から見えにくく、道を挟むと被害が無いことや、支援が行き届かないことに活動の難しさを感じることもあった。そのため、IVUSAとしてはまず、困っている人を一人ぼっちにさせないように一軒ずつ丁寧に訪問した。こうしたことが誰かの力になっていると信じている」と活動にかける熱意を語った。

負けてたまるかTシャツの由来（当事者意識をもつように自分のことと捉えて活動するとの思いからはじまったもの）

高校生へのメッセージ

八巻誉人さん 「学生は、微力ではあるかもしれないが、無力ではない。多くのボランティア活動を通して実感してきた。だから、いつも自分に何ができるかを考え、行動してい

る。そして、多くの仲間とともに、社会で困っていることや課題に挑戦することで新しい自分に出会っている。 私たちと一緒に、はじめの一步を踏み出してみませんか。」

坂本奈月さん 「高校時代は勉強ばかりでテストの点数や成績に気をとられ、正解のあるものだけを学ぶために生きていた。しかし、今は災害救援という正解のない活動やさまざまな研修に参加し、応急処置の方法や身の回りの危機に対処する方法などを学ぶことで、生きるために学んでいると実感している。将来自分や友達が被災するかもしれない。その時に自分の目で見て考え行動できる人になりませんか。」

○6 ページ

トライ&エラー 失敗しても、また挑戦 自分らしく輝きたい

2018年1月、高校2年生でガンバ大阪に入団した中村敬斗選手と谷晃生選手。現役高校生でありながら、プロのサッカー選手として活躍する2人に話を聞いた。

38 FW 中村 敬斗 (なかむら けいと) PROFILE 2000年7月28日生まれ
出身地：千葉県我孫子市 身長・体重：180cm/75kg 血液型：A 利き足：右 ニックネーム：ケイト

CAREER 高野山SSS→柏イーグルス→柏レイソルU-12→高野山SSS→三菱養和
巣鴨Jrユース→三菱養和SCユース Jリーグ初出場2018年2月24日 J1リーグ第1
節 G大阪 (vs 名古屋・吹田S) 代表歴U-15、U-16、U-17 国際大会2016年/AFC
U-16選手権 (インド)：ベスト4 2017年/FIFA U-17ワールドカップ (インド)
ベスト16

41 GK 谷 晃生 (たに こうせい) PROFILE 2000年11月22日生まれ 出
身地：大阪府堺市 身長・体重：189cm/82kg 血液型：O 利き足：右 ニックネーム：
コーサー

CAREER TSK泉北SC→ガンバ大阪Jrユース→ガンバ大阪ユース Jリーグ初出
場2017年3月12日 J3リーグ第1節 G大23 (vs 鳥取・吹田S) 代表歴U-15、U
-16、U-17、U-20 国際大会2016年/AFC U-16選手権 (インド)：ベスト4 2017年/
FIFA U-17ワールドカップ (インド)：ベスト16

ープロをめざすきっかけ

谷：兄の影響もあり、5歳でサッカーをはじめた。2010年のワールドカップで、「絶対にこの舞台に立ちたい」との思いを強くした。憧れだったプロの世界が、夢から目標へと変わ

っていった。

一サッカーと勉強の両立は

中村：僕たちは、サッカーに一番集中できる環境を整えてもらっている。プロである限り、サッカー中心の生活は否めない。とはいえ、高校生。サッカーの練習が終われば、週1回は通信制の学校に通い、気持ちを切り替えて勉強にもしっかり集中している。オフの時間を使って、英会話の勉強もしている。

一サッカー選手としての転機

中村：実は、サッカーを嫌いになった時期がある。小4から柏レイソルのジュニアに所属していたが、サッカーが楽しくなくなり、小5の終わりに退団してしまった。いろんな理由があったが、その時は自分の中でどうすればいいのかと、深く悩んだ。サッカーの楽しさを思い出すため、小6で地元のクラブチームに入団。自由にプレイさせてもらったことで、原点であるサッカーの楽しさを取り戻した。

谷：僕も小学校の頃は地元のチームに所属。練習は週2回だけで、楽しみながらプレイすることがメインだった。中学校でガンバのジュニアユースに入団すると、周りの意識やレベルの高さに驚いた。日々、小さな葛藤を少しずつ自分の中でクリアしながら、ピッチで表現していった。いろんな個性があり、それにつぶされているようではやっていけない。その中で自分らしさを発揮し、輝ける人間になりたい。

一大事にしていること

谷：小さい頃から意識したのは、チャレンジすること。失敗には、成功よりはるかに大きな学びの材料がある。失敗から学ぶことを自分の中で大事にしている。

中村：自分の考えを信じ、周りに流されないこと。サッカーのために何ができるかを常に考え行動している。例えば食事にしても、栄養面を考えて外食は控え目に、極力寮でのバランスある食事を摂るようにしている。プレイでは、ドリブルやシュートなど、自分の得意な武器を発揮しながら、ウィークポイントを埋めることにもチャレンジしている。

一座右の銘

谷：『気持ちには引力がある』強く思えば思うほど、目標や夢は近づいてくる。思う強さによって、自分の行動が変わり、目標はおのずと近づいてくる。自分も一歩ずつ進んでいくことができると信じている。

中村：『一意専心』ひとつのことに専念するという意味。自分の最大限、全力でサッカーにかけてきたことは、他の選手に負けていない。前の試合の課題や、その時の精神状態、次の試合で大事にしたいことなどは、すべてノートに書き留めている。そのときしかわからない気持ちは、次の日になったら忘れてしまうもの。試合前に見返すことも忘れない。

寝る時以外は一日中サッカーのことを考えているほど。

—目標や夢

中村：入団して半年。ガンバ大阪の力になれているとはまだまだ思っていない。フォワードである以上、得点を決めて、ガンバの勝利に貢献していきたい。今はとにかくガンバで活躍し、リーグ戦で順位を上げていきたい。

谷：サッカーをやるきっかけにもなったワールドカップに出場することが大きな目標。そのためにこのチームで自分が活躍し、目標に近づけるよう、日々努力していきたい。

○7ページ

UNIVERSAL STUDIOS JAPAN 世界最高を、お届けしたい。

子どもから若者、シニア層まで、幅広い世代に愛されるユニバーサル・スタジオ・ジャパン™。どんな人たちが働いているの？ さまざまな人が楽しむための工夫は？ 「多様性」をキーワードに、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン™の秘密と魅力に迫った。

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン™ に聞いた。

Q1 どんな人が働いている？

アメリカや中国、台湾、ウクライナなど、国籍や文化の異なるさまざまな人が働いています。マーケティングや商品開発、店舗運営、技術など、能力や適性にあわせ、多様な分野で活躍していますよ。またパークでは、身体・知的・精神などに障がいがある方々も特技や特性を生かして働いています。チーム内で周りのクルーと同じように働いている人もいればサポートやフォローを受けることで力を発揮できる人は、物販店舗の商品の回収や仕分けの軽作業を行ったり、オフィスの清掃を行っています。さらに、パーク内のベンチ、ゴミ箱、テーブルの再塗装を福祉業所に依頼し、障がい者の社会参加や自立を応援しています。

Q2 障がいがあっても楽しめる？

アトラクションで長い時間並んでお待ちいただくことが難しい方には、サポートパスを発行。アトラクションの待ち時間分をお店やベンチなど別の場所で過ごしていただけます。長蛇の列に並ばなくて良いので、体力を消耗することなく楽しんでいただけます。また、通常のスタジオ・ガイドより大きな文字と地図、サポートに関する情報が満載の「サポートブック」をご用意。その他、点字マップやスケールモデル（模型）など、いろいろなツールを揃えています。

Q3 食物アレルギーがあってもレストランで食事は楽しめる？

低アレルゲンのメニューを、レストランやカフェでご用意。詳細は公式 WEB サイトで確認いただけます。また、各レストランの提供メニューの中で、アレルゲン 27 種類の含有の有無を注文時に確認していただくことが可能です。パーク内レストラン・クルーにおたずねください。

Q4 外国の人など、いろいろな人が迷わず楽しめる工夫はある？

英語や韓国語など、複数の言語による公式 WEB サイトとスタジオ・ガイドをご用意しています。また、パーク内では、さまざまな情報を文字以外のシンプルな絵や図記号で示した「ピクトグラム」を導入。言葉だけでは伝わりにくい場面では、地図に矢印などを描いて伝えたり、一度に複数の情報を伝ええないなど、クルーは、コミュニケーションの技術についてもトレーニングしています。こうした配慮は、日本語がわからない外国からのゲストだけでなく、障がいのある方にもより安心して楽しんでいただくことにつながります。

Q5 この秋、イチ押しのイベントは!?

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン™は 2002 年からハロウィーンをテーマにしたシーズナル・イベントを開始。17 年目を迎える今年は、過去のハロウィーンとは一線を画す、まったく違うハロウィーンをお楽しみいただけます。今年初登場、これまでのホラー・アトラクションの概念を覆す、“大人”な女性も満足できるファッショナブルで、体験する者すべてが魂を奪われ、息をのむ心理的恐怖を体感できる『大人ハロウィーン』。朝から夜まで一日中、子どもも一緒に家族みんなでハチャメチャに楽しめる『こわかわハロウィーン』。さらには、新絶叫アトラクションや新ゾンビが続々登場し、想像を超える更なる恐怖体験に襲われる『絶叫ハロウィーン』と、3つのまったく異なるハロウィーンの楽しみ方をゲストの皆さまにお届けします。まさに、『ハロウィーン新時代』到来です！

「ユニバーサル・サプライズ・ハロウィーン」は 2018 年 9 月 7 日(金)から 11 月 4 日(日)まで開催

○ 8 ページ

社会福祉法人野のはな

グルメ×ふくし×乗馬

高速道路貝塚インターを出て、20 分ほど車で走ると、豊かな自然の中で味わえる本格イタリアンのお店「森の小径（こみち）」がある。グランドシェフには、大阪市内のホテル等で腕を磨いた一流シェフを迎え、広々としたホールにきれいな木目のテーブルと窓から差し込む自然光の温かい雰囲気が特徴的。また本格的なピザ窯があり、チーズやオリーブオイルはイタリアから輸入。料理には、同敷地内の自家農園で収穫した新鮮な食材が使われている。さらに、レストランに併設されているのは西日本最大の屋内馬場。乗馬クラブ「ハーモニーファーム野のはな（以下 HF 野のはな）」では、天候に影響なく乗馬体験ができる。

今夏、2周年を迎えたレストラン「森の小径」と「HF 野のはな」は、“ふくし”とどう関係しているのかご紹介しよう。

スタッフの笑顔が自慢

運営しているのは、阪南市にある社会福祉法人野のはな。ここでは、障がいがある人もホールやキッチンでの配膳や調理、馬の世話、農作業を担当し、スタッフ一といきいきと、笑顔でお客様と接している。また、「HF 野のはな」は乗馬クラブだけでなく、ホースセラピー事業も実施している。貝塚市と連携し、不登校などの小中学生が馬とふれあい、心身の健康増進や社会性を身につけ、学校復帰などにつなげようと試みている。

社会福祉法人野のはな 理事 吉川 卓次（よしかわ たくじ）さんの話

素材にこだわり、本物を提供

大事にしていることは、普通のことを普通にする。お店の看板や広告チラシには、「障がい者が働く店」といった紹介をしていない。お客様が食事や乗馬をしに来たところにたまたま障がい者も働いている、という感じ。そのため、新鮮な良い食材を使い、本物を提供することにこだわっている。食事や乗馬体験の中で、自然と障がい者と交流することが大切と考えている。また、世話をする中で出た馬糞や森の落ち葉を堆肥として管理し、畑の肥やしにして、レストランで美味しい食材をお客様に届けたい。極力、農薬や化学肥料、合成飼料を使わず、手間をかけて、安心安全な有機農業を大切にしている。そして、レストランで食事をされたお客様から「おいしかった」「ありがとう」と言ってもらえることがなによりうれしいこと。 レストランのスタッフ、食材を作っている畑作業のスタッフ、馬の世話担当のスタッフが相互に、「いい食材をありがとう」「いい肥料をありがとう」と感謝を伝え、働いている人全員が「ありがとう」の気持ちを共有し、仕事へのモチベーションになっている。ときには、コップの水や食事をひっくり返すこともある。しかし、失敗したからといって「その仕事が向いてない」と配置転換するのではなく、失敗してもそのあとどうするかが大切。例えば今日は皿を10枚洗うことができた。次は15枚、20枚とステップアップできるような支援計画を考えている。きめ細かく目標を定め、日々成長を感じられる、「できた」という達成感がやりがいにつながるような支援に取り組んでいる。

多彩なイベントを通じてさまざまな人が集える場に

ホースセラピーは、レストランの定休日に月1回開催。馬と向き合うことに集中するため、人が少ない日に設定している。多くの馬に触れ合うことで、さまざまな感情を育て、「ここに行きたい」と思える居場所になればと考えている。今後は、高齢者の介護予防の一環でも乗馬体験を展開する予定だ。さらに、お店を利用して結婚式を執り行い、乗馬クラブの白馬に乗って新婦が入場するプランや、プロジェクトマップなど、多彩なイベントを企画。子どもからお年寄りまで集まる場になればいいと思う。障がいのある人へのマイナスイメージを払拭する力がここにはある。ふれあい、接することが理解につながる。

「森の小径」「HF 野のはな」は、レストランや乗馬クラブを通して就労の場の提供、児童の居場所づくりや学校復帰支援に取り組んでいる。そして、利用客は食事や乗馬をすることで、いつの間にかふくしに触れ、貢献している。利用客の日常生活とふくしは、案外近いものだ。ふくし、グルメ、乗馬は文字だけ見れば、別分野のようだが、「森の小径」では相乗効果をもって展開している。あなたの暮らす街でも、身近なふくしをぜひ探してみよう。

○ 8 ページ

からだの性 こころの性

LGBT という言葉、見たり聞いたりしたことはあるだろうか。LGBT とは、性的指向（恋愛感情や性的な関心がどの性別に向いているか）や性自認（自分の性をどのように認識しているか）について、次の頭文字をとって表現した言葉で、性的マイノリティの総称として使われることもある。

- ・ **Lesbian**（レズビアン）：同性を好きになる女性
- ・ **Gay**（ゲイ）：同性を好きになる男性
- ・ **Bisexual**（バイセクシュアル）：異性を好きになることもあれば、同性を好きになることもある人
- ・ **Transgender**（トランスジェンダー）：出生時に決定された性（からだの性）とは異なる性を自認する人

LGBT 以外にも性的指向や性自認が明確でない人、あるいはそもそもない人もいる。こういった性的マイノリティの人の多くは、社会の差別や偏見のなかで、悩みを抱え、苦い思いをするなど、生きづらさを感じている。一方で、近年少しずつ性に対する社会の向き合い方が変化してきている。例えば、まちなかや公共施設などで見かける「だれでもトイレ」。よく見ると虹色の服を着たイラストに。これは高齢者や障がい者、妊産婦、けがや病気の人などに加え、LGBT の人にも配慮したものだ。学校生活では「ジェンダーレス制服」も登場した。ズボンとスカート、ネクタイとリボンを自由に選べるようにして、性別による違いを極力なくすことをめざして導入されようとしている。誰にも打ち明けられず葛藤している友人は周りにもいるかもしれない。その人のありのままを受け止め、心許しあえる関係でいられるように、多様な性があることを知ろう。

○ 9 ページ

ふくし×○○○ ふくしに関わる先輩たち

ふくし×エンジニア

河村義肢株式会社 製造1部 義肢課 係長 神田 一憲（かんだ かずのり） さん

川村義肢株式会社 義肢装具の製造販売のほかに、車いす・自助具・補聴器など福祉関係商品を取り扱う。また大東市から委託を受け、安心して暮らせる町づくりの活動もしている。

子どものころからモノを作るのが好きだった神田さん。そんな仕事に就きたいと選んだのが義肢（四肢を失った場合などに、その機能を補うために装着する人工的な手足。義手義足）の製造だった。神田さんは主に断端部（切断箇所）を入れるソケット部分を作っている。入社して間もない頃、師匠と仰いだ大先輩に手ほどきしてもらい、社是の一つ、「常に研鑽し常に前進しよう」の言葉のもと、切磋琢磨。一人ひとりの体にあわせての製作は、すべての要望に沿うことは難しい。うまくいくときもあれば、いかないときもある。そんな時には仲間に相談しアドバイスをもらう。日々の試行錯誤、それも今ではやりがいになった。相手の立場に立って作ることを心がけ、努力した結果、お客様の喜ぶ顔が見れたときは、心地よい達成感を得られ、この仕事を選んでよかったと思う瞬間だそう。

ふくし×食事

キューピー株式会社 大阪支店 家庭用営業五課 坂田 裕美（さかた ひろみ）さん
キューピー株式会社 マヨネーズ・ソースなどの食品のほか、化粧品や医薬品の原料なども手がけている。

学生時代に栄養士の資格を取得。専門的な知識を生かす仕事がしたいと、食品関係に絞り就活した。社訓の一つ「親を大切にすること」が決め手である。坂田さんの仕事は、豊富な商品知識を武器に、主に大手スーパー・ドラッグストアに商品の提案や紹介をする販売促進だ。モットーは常に前向きであきらめず、最後までやりきること。高齢者や食事を摂取しづらい方向けの「やさしい献立」は、おいしさ・歯触りを大切に開発されたユニバーサルデザインフード（加齢や病気などによってかむ力や飲み込む力が弱くなった人のために、食べやすく配慮された加工食品。主にレトルト食品や冷凍食品が中心）。健康長寿の一助となるよう日々奔走している。二人目を出産後、昨年4月に職場復帰した。今は時短勤務。ずいぶん社内の環境や制度、上司・同僚の理解に助けられている。母親となった今、親のありがたみをかみしめ、公私ともに充実した日々を送っている。

○10-11 ページ

私たちの暮らしと社会福祉法人

私たちの地域には、規模やサービス内容も異なる複数の社会福祉法人（社会福祉施設）がある。大阪では、施設のサービス利用者のみならず、地域に住む子どもや高齢者、障がいのある人もない人も、身近な存在として暮らしのどこかでつながっている、そんな社会福祉法人の存在をめざしている。「だいじょうぶ！社会福祉法人があります」というキャッチフレーズのもと、多様な地域ニーズや生活課題に応え、さまざまな取り組みや活動を行っ

ている。

○地域貢献

だいじょうぶ！社会福祉法人があります

オール大阪の社会貢献事業

社会福祉法人は、社会福祉法に基づき設立された法人。高齢者や子ども、障がい児・者などの生活を支えるさまざまな福祉サービスを提供している。全国で約 2 万法人、大阪府では約 1, 200 法人がある。現在、府内すべての社会福祉法人（社会福祉施設）が、地域のさまざまな生活課題に対し、社会福祉法人の強み（職員の専門性や福祉施設の活用など）を生かしながら、支援事業を展開し、地域住民一人ひとりのしあわせを支えている（＝大阪しあわせネットワーク）

「今日食べるものがない」緊急の生活 SOS に

生活困窮者レスキュー事業

施設の職員が自宅を訪問。対象者に寄り添う総合生活相談を実施。緊急の場合は経済的援助（現物給付）で食材など提供。

地域のつながりづくりの拠点としての食堂

閉じこもりがちな高齢者を対象に体操や毛筆講座などのプログラムを日替わりで開催。（火木限定定食 450 円）～豊寿荘 あいあい食堂

その人に合わせた就労支援

救護施設の利用者と共に畑作業。地域住民を招いての農業体験が交流の場に。～千里寮

地域ぐるみでこどもたちをはぐくむ

母子生活支援施設を退所した子どもたち、地域や民生委員から紹介のあった子どもたちを対象に学習支援活動。（地域のボランティアが食事やおやつを提供）～東さくら園 退所児学習塾 ひだまり

詳しくは、大阪しあわせネットワークで検索

○子ども

子どもにかかわる“しゃふく”って？

「三つ子の魂百まで」というように、子どもの育ちは、今後の人格形成に影響を与える。“しゃふく”は、子どもの時期に安全で、快適で健康な生活を送り、きちんと教育や養護を受けることができるよう、さまざまな支援をしている

どんな施設なの？

★両親が共働きなどで、日中養育する人がいない、または不足しているとき…保育園・認定こども園では、保育士らが子どもの育ちを支えている。

★親との離別やDV、虐待等で十分な養育を受けられないとき…児童養護施設（概ね2～18歳）・乳児院・母子生活支援施設などでは、児童指導員がそれぞれ養育者に代わって育ちを支えている。

どんな人が働いているの？

保育士、児童指導員、心理療法担当職員、栄養士、調理員など。

どれくらいあるの？

府内に保育園・認定こども園は、町の郵便局よりも多く、1,493カ所（うち921カ所を社福が運営）※。児童養護施設、乳児院や母子生活支援施設などは約80カ所

すべてに共通しているのは、何よりも「子どもの笑顔」のための施設であり、「一人じゃないよ。私たち“しゃふく”がいるよ」と子どもたちに寄り添うこと。やさしくほほえめば子どもたちもニコリ。しゃふくは夢や希望、愛情、感謝、そして笑顔がたくさん溢れた宝箱だ！

※平成30年3月末現在。認可外保育所・小規模保育所は除く。

○障がい

障がいがある人もない人も 住みやすい社会に

厚生労働省の推計によると日本には障がいのある人が約936万2千人。国民のおよそ14人に1人（約7.4%）は何らかの障がいがあるという計算になる。障がいの程度により、支援が必要な人、障がいのない人と変わらない生活を送る人がいる。“しゃふく”はそんな障がいのある人たちに対しても必要に応じてさまざまなサービスを提供し、その生活を支援している。

笑顔になれる場所づくり

障がい者の就労の場としてこだわりの食材を使用したメニューを提供するカフェ。ワークショップなども開催し、誰もが気軽に立ち寄ることができる場所となっている。～ハピパール（羽曳野市）

手作り製品で自己を表現

工業製品と変わらない品質でお洒落なデザインのものも多い。売り上げが障がい者の給料となり、社会的・経済的自立の助けとなる。～りんごの木（八尾市）

社福が実施する障がい者への主な支援事業

常時介護が必要な人→ 障害者支援施設で日常生活上必要な支援を行う

一般就労を目指す人→ 就労系施設で「福祉的就労」※を通じて、就労訓練を実施

地域で生活をする人→ グループホームを運営し、住まいの場を提供

自宅で生活する人 → 相談や訪問による支援サービスを提供

※ お菓子やパン等の食品の製造から、雑貨類の製作、清掃や軽作業、パソコンを利用しデザインやプログラミングまで多種多様。就労訓練をして一般企業に就職する人も多くいる。

○高齢者

地域と密着した老人福祉施設

老人福祉施設は利用者の介護や生活援助等以外に地域のちょっとした困りごとにも対応している。

※全施設一律で取り組んでいるものではなく、地域特性に応じて柔軟に取り組んでいる。

中間的就労

働きたいけど、すぐに働くことが不安、自信がない。そんな方に働くまでの準備期間として、個別的就労支援プログラムを一緒に考え、施設等で働く経験をする就労のかたち。対象者と施設担当者間に絆が生まれる。

認知症カフェ

認知症の方や、その家族が孤立しないように集える場。医療や介護の専門家のサポートもあり、地域住民も利用できる。

買い物支援

近所にスーパーがないなど、買い物に困っている人が購入できるように施設で物販を開催。

サロン・地域食堂

高齢者・障がい者・子どもなど地域住民の孤立を防ぎ、ゆるやかなつながりを作る場として施設を開放。また子どもの孤食などが社会課題となっているため、地域（子ども）食堂を開催。

読者プレゼント～ 今後の紙面づくりの参考とするため、読者アンケートにご協力ください。答えていただいた方には、抽選でプレゼントが当たるかも！ぜひご応募くださいね。

①サイン入りレプリカユニフォーム M~L 1枚 1名様

- ②サイン入りレプリカユニフォーム SS～S 1枚 1名様
- ③キューピーやさしい献立 レトルトパウチ食品 4個セット 100名様
- ④ガンバ大阪 vs 横浜F・マリノス戦 観戦ペアチケット※ 10/20(土) 15:00 キックオフ
3組6名様
- ⑤サイン入りサッカーボール 1名様
- ⑥オリジナルクオカード(500円分) 30名様

応募方法_QRコードからアクセスの場合は、応募フォームにそって回答してください。
はがき、FAXの場合は、必要事項①～⑨をご記入のうえ応募ください。

- ①氏名 ②ふりがな ③住所 ④電話番号 ⑤所属 ⑥本紙への感想⑦面白かった記事
 - ⑧興味のあるテーマ ⑨希望するプレゼント* 当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。*応募者の個人情報はプレゼントの発送のみに使用します。
- * 重複応募・記入漏れは無効となりますのでご注意ください。

〒542-0065 大阪府中央区中寺 1-1-54 社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会 ふくしおお
さかプレゼント係

応募期間： 9/1(土)～10/8(月) Fax 06-6764-5374

大阪府共同募金会からのお知らせ♪

■平成30年度・第2回河原林富美福祉基金配分申請受付(平成30年度事業対象)

河原林富美福祉基金により、社会福祉推進事業の支援でこれまであまり手を差しのべていなかった福祉の狭間の事業や福祉の周辺領域で支援を要する事業に対する配分申請を受け付けます。申請書受付期間 9月20日(木)必着

■平成30年度 NHK 歳末たすけあい特別配分申請受付(平成30年度事業対象)

年末・年始の時期に特有な福祉ニーズや生活困難者等のニーズに応える事業に対する配分申請を受け付けます。申請書受付期間 9月28日(金)必着

■寄付金配分施設などの訪問

～あなたの寄付金が役立てられているところを訪問しませんか～

大阪府共同募金会では、役員・評議員・運営協議会委員で構成する調査指導部会活動として、毎年、配分を受けた施設、団体、社会福祉協議会などを訪問し、共同募金の活用状況の調査、住民への公表等の指導を行っています。赤い羽根データベース「はねっと」で大阪を含めた全国の配分事業をご紹介しますが、大阪府共同募金会では『もっと知りたい知らせたい』キャンペーンの一環として、寄付者である府民のみなさまにもっと配分事業を知っていただこうと、今年もこの調査指導部会活動に同行参加される方を募集しています。申し込み受付期間 9月28日(金)必着

共通

一定条件が必要です。詳しくは、大阪府共同募金会ホームページ

<http://www.akaihane-osaka.or.jp> をご覧ください。

問合せ 大阪府共同募金会 TEL 06-6762-8717 FAX 06-6762-8718

[Eメール ai-kibou@akaihane-osaka.or.jp](mailto:ai-kibou@akaihane-osaka.or.jp) 赤い羽根おおさか で検索

ズームアップ 笑顔咲かせる人 Vo.7

本連載では、福祉の職場でイキイキと働く人を紹介し、仕事や人の魅力を伝える。今回は、入職4年目の村上美穂さんにインタビュー。仕事のやりがいや醍醐味について聞いた。

社会福祉法人 コスモスおおはま障害者作業所 村上 美穂（むらかみ みほ）さん

障害者の「働く場」を提供

ここでは、障がいの程度に応じたさまざまな働く場を提供している。私は、比較的重度の方が多い“ほっこり班”を担当。カーテンフックの袋詰めなど軽作業を通じて社会参加を実現している。

仕事についたきっかけ

高校時代。幼い頃から仲の良かったところに知的障がいがあることを知り、福祉系の大学に興味をもった。進学後、ボランティア活動をする中で知的障がいのある人との交流にやりがいを実感。就職活動では、福祉系のほか飲食系やアミューズメントなど、興味のある業界を見て回り、本当にやりたいことは何かを模索した。少し遠回りしたが、知的障がい者への支援こそが私のライフワークだと気づいた。

表情やジェスチャーから読み取る

働く仲間と声をかけあったり、些細なことで笑いあったりと、毎日のコミュニケーションに楽しさを感じている。私にとっては“自分らしさ”を素直に表現できる場なのかもしれない。思いを言葉にできない方もいるが、その人の心に寄り添い、表情やジェスチャーから気持ちを読み取る。コミュニケーションを重ねながら、徐々に信頼関係を築いていくのも仕事の醍醐味だ。

一人では乗り越えられなかった壁

入職3年目で現場責任者を任された。班編成が変わったことで利用者の気持ちがバラバラになり、チームをまとめていくことにとても苦労した。そんな中、先輩と一緒に現場に入ってサポートしてくれ、とても心強かった。どんな状況でも、家族の皆さんが私を信頼し、責任者として任せてくれたことにも救われた。半年ほど経過した頃からチーム内で良好な関係が築かれるようになったのは、多くの人の支えがあったからこそだ。

おいてけぼりにしない

「おいてけぼりにしない」をモットーに、常に笑顔で、利用者一人ひとりの思い、家族の思いをうまく引き出せるようなプロフェッショナルをめざして、これからもがんばりたい。